

3. 北関東（地域別調査機関：（財）日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	乗用車販売店（販売担当） 通信会社（営業担当）	・今年に入って1、2、3月と月を追うことに良くなっているため、3か月後も良くなる。 ・デジタル家電製品の規格も決まりつつあり、またワンセグの携帯電話やカーナビの発売により若年層の購買が増え、年代問わずデジタルの浸透がなされていくので全体的に景気は上向いている。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・地上デジタル放送が始まるので、テレビの買い換えが多くなっていく。
		一般小売店〔家電〕（経営者）	・デジタル化により多少は販売量が増加する。
		百貨店（売場主任）	・4月は月の初めから昨年も行った大感謝祭を行うので、相当多くの客が来店する。4月はイベントが目白押しで、後半にも期待ができる。
		衣料品専門店（統括）	・これから地域のイベント、催事が多くなる季節である。イベント等が始まると客の動きが良くなる。
		乗用車販売店（販売担当）	・今のところ宣伝すればかなり車が売れる。負け組、勝ち組の話ではないが、自己破産した人やクレジットが通らない客がだんだんと来なくなっている。今は本当に車を買いに来店する人が多いので、それだけ景気は良くなっている。
		住関連専門店（店長）	・まだ必要以上の買上は少ないが、趣味し好品の動向は上向き傾向にある。
		住関連専門店（仕入担当）	・売上高は季節要因などで変動するが、一品単価の上昇傾向は続く。
		都市型ホテル（経営者）	・自動車メーカーを抱えた都市のため、大部分を自動車産業に依存しているが、明るい兆しがみえてきて仕掛けがしやすくなっている。夏以降の予約も順調に入っている。
		タクシー運転手	・更なる増車効果やマラソン、プロ野球等のスポーツイベントでのタクシー需要が見込まれる。
		ゴルフ場（従業員）	・予約状況が良くなっている。前年度よりも上回る見込みなのでやや良くなる。
		美容室（経営者）	・最近、高額のパーマ、ヘアダイをする客が増えてきており、これから暖かくなるためカット客も増えるので、少し良くなる。
		住宅販売会社（経営者）	・駅前のマンション建設ラッシュは、先月に引き続き増加傾向にある。
変わらない	商店街（代表者）	・地域に超大型スーパーが出店を予定していたが中止となり、地元商店街は一樣にほっとしているが、各店の動向はあまりぱっとせず、この先急に良くなるとは思えない。	
	一般小売店〔精肉〕（経営者）	・人の動きも少しは良くなるかと期待しているが、現在は催事のある日しか動きがないので、まだ変わらない。	
	スーパー（経営者）	・競争が激化しており、競合店のチラシ回数も一向に収まらず、粗利の確保が非常に厳しい状況にある。売上も期待できそうもない。	
	スーパー（統括）	・新生活関連の商材は好調に推移する。内祝い、返礼ギフトは単価ダウンで実用性の高い洗剤などへ少しシフトしてきている。点単価、客単価共に低下傾向であるが、客の来店頻度はますます高くなってきている。	
	コンビニ（店長）	・利用形態がほとんど生活に密着した形になっているので、景気に大きく左右されることはなくなってきている。大きなヒット商品でも出れば別だが、そういうことがない限りはコンビニの景気はあまり変わらない。	
	衣料品専門店（経営者）	・地方圏の個人消費はいまだに低迷しており、郊外型ショッピングモールの拡大で市内中心部は立ち直るきっかけを失っている。	
	衣料品専門店（販売担当）	・来客数そのものはそれほど落ち込んでいないが、消費行動、実売に結び付かないという状況である。客の財布のひもはかなり固い。	
	乗用車販売店（営業担当）	・商談、契約件数は若干伸びてきたが、数多く売らないと利益確保が難しい。	
	一般レストラン（経営者）	・客が新幹線駅周辺へ流れ、既存の商店街で客足は止まらない状況である。	
	スナック（経営者）	・先の予約も少なく、急に良くなるようには思えない。ゴールデンウィーク周辺の、地元のイベントに期待したい。	

	都市型ホテル（スタッフ）	・婚礼受注が非常に苦戦しているなかで、法人を中心とした宴会需要の拡大等により、現状のまま推移していくと見込んでいる。	
	競輪場（職員）	・一番大きい競輪の大会があったが、なかなか販売額が伸びていない。	
	設計事務所（所長）	・まだしばらく変化のないまま推移する。地方の末端まで好景気が浸透してくるのは時間が掛かる。	
	設計事務所（所長）	・現在契約件数の見込みが大変苦しい。悪い状況が続いているので、細かい仕事もこなして何とか乗り切っていくと見込んでいる。	
	住宅販売会社（経営者）	・アパートの退去、入居の動きから判断すると、年度末における民間企業の転勤は少なく、不動産購入の動きはまだまだ低迷している。	
	住宅販売会社（経営者）	・地方に関しては、いくらか遅れて影響が出るので、1年先くらいにならないと変わらない。	
やや悪くなる	一般小売店〔青果〕（店長）	・近辺に大型店ができ、それに伴って集客力も悪くなっている。大店法で大型店が郊外に出店する規制を設けたために、これからは店舗を縮小して街の中に出店してくるという懸念がある。	
	コンビニ（店長）	・景気はかなり好調に上向いているそうだが、当地では街中はますます元気がなくなっている。例年春休みに入ると、深夜、早朝、昼時の若者が若干は増えていたが、今年はなぜか減少している。年配者の来店も芳しくない。10日ほど前に開通したバイパスにより、動線が変化し、行き帰りに利用していた客が来店しなくなったように感じる。これが更に悪影響をもたらすだろうと心配している。	
	衣料品専門店（店長）	・前年は愛知万博に出かける人が多く、購買動機として大いに貢献してもらったが、本年はそれに代わるものが特になく、前年の数字をクリアするのも厳しい。	
	乗用車販売店（営業担当）	・新型車の導入など、販売量の増加要素が全くない。	
	その他専門店〔携帯電話〕（営業担当）	・4月下旬～6月上旬は大きなキャンペーンもなく、携帯電話業界が大きく売上を伸ばすような要素はない。ナンバーポータビリティを控えて新たな施策を含めた取組がみえてくれば、多少動きは活発化してくる。	
	都市型ホテル（スタッフ）	・3、4月と歓送迎会等が入っているが、宿泊関係が問題である。これからゴールデンウィーク等の連休が入ってくると、全体的に宿泊がかなり落ち込む懸念がある。今後総会等の予約もかなり獲得していかないと厳しい。	
	タクシー（経営者）	・夜の動きが悪いので、この先心配である。	
	美容室（経営者）	・1年間を通した売上は前年を5%下回っている。3か月後もとても期待はできない。単価の低下やパーマをかける客がほとんどいないことなどから、売上は伸びていない。見直しにも限界があり、大変である。	
悪くなる			
企業動向関連	良くなる	一般機械器具製造業（生産管理担当）	・取引先の来期の生産方針説明会において、各社とも10～20%増の計画を立てている。また、試作の案件に関しても大幅に増える計画で、今から休日出勤の要請がきている。仕事量が減る気配は全くみられない。
	やや良くなる	食料品製造業（営業統括）	・各社とも国産100%ものに力を入れてきている。ここにきて工場見学者が例年より若干多くなっているのも、先行きの見通しを明るくしている。
		広告代理店（営業担当）	・広告受注の増加はもちろん、広告による集客も良くなっている。消費者の消費行動の活発化が少しみえてきている。
		新聞販売店〔広告〕（総務担当）	・5月以降、大型家具店のオープンやホームセンターのスーパーセンターへの業態変更などが計画されており、小売関係の底堅い力が感じられる。
変わらない	電気機械器具製造業（経営者）	・安定した受注がなく、苦しい経営は当分続きそうである。	
	電気機械器具製造業（経営者）	・4月以降の新製品ということで数種類試作の注文が入っている。これがヒットすれば何とかなるが、現状下降線をたどっており、新年度の企画も物を出してみないと分からないので、低空飛行はまだ続く。	
	輸送用機械器具製造業（経営者）	・このところ5～6か月は良い状況が続いている。取引先の様子や販売量、受注量共に毎月平均して流れているので、今後もしばらくこのままでいく。	

		輸送業（営業担当）	・物量は増えているが、並行して燃料高の負担もあり、今後は無理して自社便を使うより、協力運送会社へ依頼をしてマージンを取っていく形が増えそうである。
		金融業（経営企画担当）	・比較的堅調な企業が多い製造業に比べると、卸、小売、サービス業では新規の開業や出店計画は少なく、資金需要としては売上減少に伴う運転資金が中心である。不動産業でも在庫処分の販売、委託物件の販売が主流であり、資金需要は少ない。
		不動産業（経営者）	・仕事量が増えても価格調整があり、今後税金面も厳しくなるので、それほど良くなるとは思えず、むしろ心配な面の方が多い。
やや悪くなる		食料品製造業（製造担当）	・新規店舗開店で勢いが出てくると見込んでいるが、安売りに走ると自らの首を絞めることになる。
		建設業（経営者）	・受注が少ないので競争がますます激化し、採算も悪化する。
		その他サービス業〔放送〕（営業担当）	・官公庁、通信事業等からの中長期契約のタイムコマーシャルが3%程度落ち込む見込みである。商業、サービス業、不動産業からのスポットコマーシャルは増えてきているが、期間が短く小口化してきている。広告の多様化により受注競争が激しく、値引き要求が強くて利益は減少傾向にある。
悪くなる		不動産業（管理担当）	・しゅん工以来のテナントである飲食店が、“エキナカ”の他ビルに移転することに伴い、5月までに撤退することがほぼ決まっている。賃貸面積が全体の1割近くを占めるので、賃貸収入の減少による影響はかなり大きい。
雇用 関連	良くなる		
	やや良くなる	人材派遣会社（経営者）	・住宅関連の生産加工の注文はこの3月からかなり増えてきている。電子機械関係や自動車関連では、相変わらず求人数は多くみられるが人の動きはさほど感じられない。新卒者をいれての動きは若干見込めると聞いている。
		人材派遣会社（営業担当）	・企業が派遣スタッフを抱え込んでいるので、登録が非常に少なくなっている。景気は今後更に良くなっていく。
		求人情報誌製作会社（経営者）	・1月中旬から現在まで、全エリア、全業種に渡って求人募集広告が非常に増えてきている。
		学校〔短期大学〕（就職担当）	・大手企業の大量採用により、Uターン学生が減少し、県内企業の人材獲得競争が激化することが予想される。職種間の採用数格差があり、依然として文系学生は厳しさが残るものの、短大生も食い込めるチャンスが出始めると見込んでいる。
変わらない		求人情報誌製作会社（経営者）	・景気は多少回復しているようであるが、業種によってはばつきがあり、長期的にみて正社員の採用にはまだ慎重なようである。
		職業安定所（職員）	・今月大手のバス製造会社において、期間工の契約更新をせず、約200名の離職者が発生した。新規求職者数も2,400名を超え、4か月ぶりに前年同月比で増加している。5か月連続前年同月比で増加している有効求職者数と併せ、今後も急速な景気回復は期待できない。一方、今月卒業予定の高卒者就職内定数は1,162名と前年に比べ83名増加し、内定率も97.2%と前年を上回っている。
		職業安定所（職員）	・安定所を長期間利用していなかった事業所からの求人申込が増加している。しかしながら、資金繰り等の悪化による人員整理、廃止の予定がいくつか寄せられており、まだ状況が良くなるとは考えられない。
		学校〔大学〕（総務担当）	・前年より早めに会社からの求人票、就職担当者の来校、学生の会社訪問、履歴書の提出等、目立った動きが出てきているが、経済状況等からみると景気が上向き要素にはならない。
やや悪くなる		-	-
悪くなる		-	-